

中国

登山クラブ会報

発行責任者
中国
登山クラブ

日本一の富士山登山

日本一の富士山登山

二十世紀最後の年、ミレニアム記念として八月二十四日、日本最高峰（三七七六メートル）の富士登山に挑戦した。

弟が富士山のふもとに住んでいるので道案内を頼み、私たち夫婦と弟夫婦の四人で、富士宮口登山道を登った。富士宮口新レニアム記念として八月二十四日、日本最高峰（三七七六メートル）の富士登山に挑戦した。



十一月二十九日に来年の登山計画を話し合いました。新年登山は海田町の「日浦山」へ登ります。春には「寒曳山」へ。秋の紅葉シーズンにはちよっと遠出をして四国の「石鎚山」で「泊る計画」です。参加してくださいね。（登山クラブ）

心ウキウキで早朝六時出発。なだらかな広い道で歩きやすい。ハイキング感覚で景色を楽しみ、富士登山を実感しながら登る。辺り一面は赤いメンゲツソウや黄色のオンダテが壮大な斜面を覆い、まるで花畑のようにきれいだ。早朝の空気もおいしく気分爽快。

新六合目からは勾配が少しきつくなり、砂れきのジグザグ道を真上に登る感じだ。新七合目を過ぎると、さらに花崗岩のごころ石が多くなり歩きにくい。今日は気温も高く汗はむく程だ。時折、下から押し上げる霧がほてった体を冷ましてくれる。上を見ると蟻のような人影が遠くに見える。六合目から、見上げた風景とあまり変わらないのが不思議だ。

復しないまま九合五勺を目指す。九合五勺まで八時間を費やす。義妹は「もう限界」とリタイア。一歩先に下山する。妻の頭痛は直つたらしい。私はひどくなる一方でおまけに吐き気まで伴つた。弟との久々の再会で昨夜の酒量（中ジョッキ一杯）が限度を越えていたのと、睡眠不足がたたつたのだろう。見上げると手の届くところに頂上が見える。ここまで来たら何が何でも引き返せない。妻と「あと一息だ。頑張ろう」と励まし合い頂上を目指す。勾配はさらにきつくなり、浮き石も多くなり歩きにくい。九州の高千穂峰や阿蘇山の登山を思い出す。最後の力を振り絞って、滑り台を反対にしたような坂を登りきると「日本最高峰富士山剣が峰」の標識のある日本一の山にたどり着く。実に十時間を費やしていた。

「ついにやった!」。思

二面に続く

一面より続く

わず標識にしがみつ。遠くから見る富士山を頭に浮かべ、そのいただきに自分

広がる美しい雲海をしつかり目に焼き付け、下山に向

元気が残っているのか、登りとまると違ったくまし

なかつた。わずかに見えるロープを頼りに下る。妻が

秋晴れに恵まれた十月二十一日、中国登山クラブは芸北町聖山に登

介してある。先に下見をした木元君が大丈夫と太鼓判。一行は黙々と高岳

懐深き山々に感動

鯛の巣山登山

久々の二日酔いか、出でつまづく。一色さんを

前方に「鯛の巣山」への大きな看板が目飛び込み

いお茶を飲む。ここからがこの山最大の難所。ぬかる

すら食べて飲んでいるのは私だけだった。頂上から東へ十分足らず

九時五十分、聖湖湖畔の登山口から登り始

聖山一高岳縦走

秋晴れの下 17人が参加

全行程はどのくらいだろう。十は十分に越えていると思うのだが。

一時すぎに山頂到着。北側に臥龍山を望み眼下に神秘的な聖湖が広がる。まさに一幅の

(津田)

(上藤)

(和崎)